

非半導体事業を強化

日本精密電子 製缶分野などへシフト

【横浜】日本精密電子(横浜市東区、一住連努社長、045・805・3371)は、主力の半

導体関連事業以外の分野への展開を強化する。業種を広げて事業のリスク分散を図る。製缶メーカーや太陽光発電パネル製造装置、原子力発電といった業種に向け、既存部品や素材の代替や改善といった提案営業を進める。現在、半導体関連事業以外の売り上げは全体の30%だが、5年以内に50%以上に引き上げる。同社は半導体製造装置部品の精密加工や洗浄装置の製造が主力。また半

導体関連事業は価格競争や需要変動に巻き込まれることが多い。半導体以外の高付加価値品について、業種を広げて展開することで利益率の増加と

収益性の確保を狙う。すでに製缶ライン向けの技術開発に着手した。製缶用プレス金型を樹脂に置き換える技術を樹立し大手製缶メーカーから受注したほか、4月以降、できあがった缶を送り出すスクリーン部品の

加工を始めた。さらに業種や顧客を広げるために今後1年間で展示会に5回出展し、技術提案に加え、コース収集を進める。これまでの半導体部品加工で積み上げたノウハウを基に代替技術を提案していく。